

中頓別町の

公衆浴場再開

社説

中頓別町の公衆浴場が実に5年振りに再開されることになり、住民は大きな期待をしている。8日には復活祭を備すことになっている。

経営者は昨年、札幌市から同町に移住してきた渡辺由起子さん(56)で「まちのお風呂屋さん」として再生したいと意欲満々である。住宅事情は以前に比べて近代化

しており、新築する住宅では100%内湯がない家はないだろう。しかし、小さくて狭いのは言うまでもなく、足を伸ばすことも出来ない浴室もある。その点、銭湯は伸び伸びと足を伸ばしてたっぷりしたお湯につかることができ、風呂好きな人にとっては銭湯の思いは忘れられないものである。その意味では同町の公衆浴場が平成18年7月に閉鎖されてからきつと寂しい思いをしていた人も多かったと思う。

渡辺さんは保健師や看護師の経歴を持ち、中頓別町でも臨時保健師として勤務しているただひたひた、

気持ちの優しい人柄である。浴場の点検などもしたが、ボイラー施設などもまだ十分使用できるだけに意を決したと言うが恐らく、今後はお風呂屋のおばさんとして町民から親しまれることになってくれると思うし、応援してくれる人も多いのは何よりだ。

過疎化の進行する地方自治体では皆んなが協力しながら豊かさを求める方向を目指してゆくと、このまちのお風呂屋さんは、立派な住民のコンセンサスの場となつてゆくことにもなると思う。町民が集まって顔を合わせ、互いの元気を喜びあって、世間話をする

ということとは昔から庶民生活の中の基本的な生活態度の1つである。そこに町民の絆の繋がりが強まってきて、人の話に耳を傾ける中で思いやりも生まれてくるもの。道路で顔をつき合わせても挨拶を交わさないという人間関係では豊かさや優しさなど生まれることにはならないだろう。まちのお風呂屋さんは、別な意味で町民の安らぎの場ともなる可能性は大きい気がする。これから寒さに向かう、渡辺さんの心の暖もった暖かいお湯が町民の身体や心にしーんとしみ込むようになって欲しいものだ。さぞ喜ばれることだろう。